資料２

第７期野尻湖水質保全計画素案に関するパブリックコメントのご意見及び県の考え方

○**募集期間**　令和６年 10 月 18 日（金）から 11 月 16 日（土）まで

○**提出件数**　意見数５件（提出者２名）

No.	素案頁	ご意見等	県の考え方
全般			
1	全般	1921 年より、国際村は野尻湖の素晴らしい自然を水泳やヨットなどの水上スポーツを通して楽しんできました。子供達はスイミングを習い、若者はヨットやカヌーを楽しみ、国際村に滞在しているみんなの憩いの場になっています。毎年、青春時代を野尻湖で過ごした中高年が夏の期間、野尻湖に戻り滞在することがあります。彼らにとって野尻湖は「ホーム」、すなわち日本での故郷です。 1980 年代後半に赤潮が発生した際、危機感を持った会員が多くいました。それまで汲み取りトイレとサンプで生活排水を対応していた約 260 件の別荘を一つの上下水道システムに繋げるという大きいなプロジェクトが発足しました。40 年後の今、未接続家屋は 10 件ほどです。8 月ごろに大量の泡が湖面に発生していますが、近年はその泡の発生は減少しています。水泳場には水草も増え、泳ぎながら大きな魚が見えたりします。	本計画では、「みんなの野尻湖　美しい姿を次世代に」をキャッチフレーズに、「湖や流域が豊かな自然を育む」、「湖に親しみ、学び、癒し、憩う」、「湖に関わる人々に持続的な恵みをもたらす」といった長期ビジョンを野尻湖に関わる多くの方々と共有し、その実現を目指します。 これまでに皆様が取り組まれた生活排水対策のほか、非特定汚染源の汚濁負荷対策などを地域住民・関係機関との協働により引き続き実施することにより、野尻湖の良好な水質を引き継いでまいります。
2	全般	今回、初めて水質保全計画の懇談会に参加することができました。地域の人たちの野尻湖に対する深い愛は国際村のみなも同じです。懇談会ではこの素晴らしい自然環境をよその人たちにどのように伝えるかが問われました。信濃町の子どもたち、町外、県外、海	現在、野尻湖では多くの方にレジャーやイベントを楽しんでいただいています。ご提案の町営プールについて信濃町に確認したところ、安全性を十分に配慮した上での運営が必要となることから、現段階では設置の予定はないとのことでしたが、ご意見は今後の野尻湖の利活用

No.	素案頁	ご意見等	県の考え方
全般			
		外の観光客が安全に湖を楽しめる施設は必要と思います。最近は SUP やカヤックなどを楽しむ若者が増えていますが、小さい子供や年配の方が野尻湖を安全に楽しめるパブリックスペースが少ないと思います。 1950 年代以前には野尻湖の中に町営プールがあったと聞いています。当時の写真ハガキにその楽しそうな様子も紹介されていました。このような町営プールを復活することはできないのでしょうか。今の野尻湖には国際村と YMCA キャンプの２カ所に湖内プールがあると思います。また、ランバージャックの桟橋でも小さい子が浮き輪を使い楽しんでいるのを見ています。暑い夏に、自然がいっぱいの野尻湖を楽しめる場所を作ることを勧めます。	を検討する際の参考にさせていただきます。
目次			
3	目次	目次の３（２）の記載が「出」となっています。	目次３（２）の記載を「流入水路の維持管理等」に修正しました。
３　水質の保全に資する事業			
4	7ページ 30行目	・次の理由から文中の「伝九郎用水」を削除されたい。 １　野尻湖の流入する河川が 11 を数えるにも関わらず、その一つに過ぎない伝九郎用水を特出しすることは不適当です。(他の流入河川の管理者がゴミの除去や草刈り等の浄化対策を講じなくても済むとも読み取られてしまいます) ２　伝九郎堰用水組合は組合員７人で全員が高齢者であることから、地域住民への働きかけ及び水路のゴミの除去や草刈りを自ら実施することは困難な状況です（全長６km に及ぶ水路の維	伝九郎用水だけでなく、他の流入水路の管理者も同様にゴミの除去や草刈り等を実施する必要があることから、ご意見を踏まえ、「流入水路」に記載を修正しました。

No.	素案頁	ご意見等	県の考え方
全般			
		持管理苦慮し、水路方面の差一元の草刈りについても費用を捻出し外部に委託している状況です)。	
5	9ページ 201行目	国際村の会員にいる海洋研究開発機構の研究員はこのようにコメントしています。「湖水中のプランクトンの写真を使って有害藻類を監視できるプランクトスコープという装置があります。私も仕事で使ったことがあるが、野尻湖でも役に立つと思います。漁業協同組合などに働きかけてみる価値があるかもしれません。藻がまだ生息しているかどうか、問題のある場所はどこかを確認するだけでなく、写真を教育やアウトリーチに役立てることができると思います。」	県の諏訪湖環境研究センターにおいて新たに野尻湖の植物プランクトンの研究を行う予定ですので、調査手法についてはご紹介いただいた機器も含め検討してまいります。